

Title	喜田博士を悼む
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1939
Jtitle	史学 Vol.18, No.1 (1939. 9) ,p.42- 42
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19390900-0042">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19390900-0042</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 喜田博士を悼む

本邦古代史、民族問題の研究に多大の業績を残された喜田博士が長逝されたことは三上博士の逝去と相待つて學界の恨事である。博士は一時雑誌「民族と歴史」を主宰され、本邦の民俗學に盡すこと多大であつた、我「史學」の公刊に當つても最初より好意を持たれてゐた。三田の本塾に來られたのは一昨秋の日吉の出土品展覽會の時來塾されたのが最初であつたと云ふ。また今春四月四谷醫學部北里圖書館に於て開かれた第四回人類學民族學聯合大會第一日に出席され、「秦人とユダヤ人」と云ふ講演をされた。同日午前予が「中部支那出土物に表はれたる南方要素」と云ふ研究發表を豫告して於て中止したのを遺憾とされ、午後是非やる様にと勧告せられてゐたが、後「幾分疲勞したから歸る」と云ふ名刺を人傳てに託され、爾餘の大會には缺席せられてしまつた。之が最後となり、遂に博士に此問題に對し私見を聞いて戴くことの出來なくなつたことは自己の不敏の致す所とは云へ遺憾に堪えない。黨同異伐、學會などは中々人集めが困難で、わざと出席しない大家の多い世の中に博士は誠に朗かな人格者であり、學界の會合にはよく出席され、智識の吸收に勉められてゐた。博士を失つて我學界はとみに淋しさを覺ゆるものがある（松本信廣）。